

DXハイスクール伴走支援事業

# ブロック別の取組実践発表会

## ・研究協議会実施レポート

－ 11/14実施東北・北関東ブロック－



### 実践発表会①（宮城県泉館山高等学校）

#### 実践発表内容

#### 実践発表を受けたフィードバック（FB）・質疑応答

発表者	宮城県泉館山高等学校
発表テーマ	デジタルスペースの環境整備
発表内容要旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取組の概要                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 校内に企画情報部を設置し、地域や大学等との連携を強化して事業を推進</li> <li>● DXラボを整備し、地域との交流を推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 手をかけずに教員ができる範囲で対応</li> </ul> </li> <li>● DX機器を活用した活動が増え、内容も実践的な探究活動へと変化</li> </ul> </li> <li>■ 取組がうまくいったポイント                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 興味を持った教員・生徒に徐々に拡大</li> <li>● 課外活動で生徒の活用を促し、総合的な探究の時間で本格的な活用を図った</li> </ul> </li> <li>■ 直面した課題と対応策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● DXラボはエアコン未設置のため、夏場に暑さによる機器トラブルへの対応という課題が発生                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 一部機器を別室に移設してDXラボⅡとして整備</li> <li>- DXラボでの地域との連携機会が減ったため、連携機会確保のために、外部イベントに制作物を出展することにした</li> </ul> </li> <li>● 学校全体への活動の拡大など課題も残されている</li> </ul> </li> </ul>

指導・助言者によるFB	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 物品購入よりも先に活動計画を作成したこと、学校外との接続を意識した体制作りをしたことが素晴らしい ⇒ 地域の企業の方や大学の方との既存の関係性を活用できたことが大きかった。元の業務に組み込む形でカリキュラムを作成できた</li> <li>■ 情報が好きな生徒が一定数おり、そうした生徒がDXラボを起点にして生徒同士、先生、地域と繋がっていくビジョンが感じられた</li> <li>■ 生徒にとっても楽しめるような探究の仕掛けがあると感じた。機器を使っていくことが当たり前になってきており、コンテストにも出ていけるのではと感じた</li> </ul>
質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業終了後の費用捻出方法は？ ⇒ 機材は揃ったため、消耗品を学校予算で対応可能かを検討していく</li> <li>■ 生徒に利用してもらうための工夫は？ ⇒ 生徒への体験会を実施している。また、部活動と関連させてDXラボの活用を働きかけている</li> <li>■ 学校全体にDXハイスクール事業を浸透させる方法は？ ⇒ 教員も生徒と共に学び、雰囲気づくりをしている</li> <li>■ 教員研修の推進に向けたポイントは？ ⇒ まず制作物を1つ作ってみることでマインドを変える</li> <li>■ 大学との連携の方法は？ ⇒ 全体講義＆ワークショップ、ゼミで特別講座を実施</li> </ul>



### 実践発表会②（岩手県立久慈高等学校）

#### 実践発表内容

#### 実践発表を受けたフィードバック（FB）・質疑応答

発表者	岩手県立久慈高等学校
発表テーマ	デジタルの活用等に関連した校内研修の実施
発表内容要旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取組の概要                             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員会議で学校として目指す方針を共有した</li> <li>● 北海道方面の大学に出向いてデータサイエンスの講義を受講した</li> <li>● 探究学習の中心的な役割を担える生徒をシンガポールに派遣し、水資源施設等の企業における研修を受講させた。</li> </ul> </li> <li>■ 授業がうまくいったポイント                             <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「授業評価アンケート」における生徒の声や、教員の要望に即したICT機器等の購入により、生徒が、より主体的・効果的に学習活動を進められるようになった</li> </ul> </li> <li>■ 直面した課題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>● DXハイスクール推進のためのチームの設置</li> <li>● 一部教員からはDXハイスクールの趣旨から外れた物品購入希望の声があがるため教員への制度周知が必要</li> </ul> </li> </ul>

指導・助言者によるFB	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 若い先生ならではの力が発揮されていると感じた。先生の提案と生徒の要望から機器を選定し購入するという取組が良い</li> <li>■ 中堅層の先生の不足や、組織づくりや趣旨徹底の難しさはあると自分自身も感じる。機器導入の先の学習との接続のイメージが難しいと感じる。社会でも、機器の活用でどのように学びが深まるのかイメージの共有が必要だと自省している</li> <li>■ リアルの体験の価値もあると思うが、ZOOM等を活用したオンライン交流により地理的・金銭的な制約を解消することも可能だと感じる</li> <li>■ 情報処理学会では高校生らしい問題解決のコンテストをオンラインで開催しているので是非検討頂きたい</li> </ul>
質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 探究学習でのデジタル活用で今後取り組みたいことは？                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 機器の整備による授業規模の拡大</li> </ul> </li> <li>■ 教員間の情報連携や研修など取り組みの方法は？                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 授業日数を増加させ、研究授業を増やして感想を共有</li> </ul> </li> <li>■ データサイエンス学習の学校全体での取り組み方は？                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 大学の先生に高校生向けの講義を依頼</li> </ul> </li> <li>■ 若い職員に役割を持たせる方針もあるのか？                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 若い職員にICT分野を担当してもらいたいが、そうした若い先生を束ねる先生がいないことが課題</li> </ul> </li> <li>■ 全校でのDXハイスクールの推進時の教員の反応は？                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 前向きだが、まだ反応が分からない部分もある</li> </ul> </li> </ul>

# グループ協議① 発表内容

協議テーマ	参加校数 (グループ数)	グループ協議の発表内容
デジタル スペースの 環境整備	36校 (6グループ)	グループ9 <ul style="list-style-type: none"><li>● 農業高校では課外授業の中でもデータ処理を行いたいニーズがあるが、Wi-Fi環境が校内だけ、という課題がある</li><li>● ハイスペックPCの導入、小学生向けのプログラミング教室の実施、スマート農業での活用、eスポーツ部の立ち上げなどの話が出た</li><li>● 今後環境整備をするための経費が厳しい</li></ul>
デジタルの活用 等に関連した校 内研修の実施	96校 (14グループ)	グループ18 <ul style="list-style-type: none"><li>● 教員向け研修をすれば、先生によってはデジタルを活用してくれるようになるが、温度差・習熟度の差などが発生するため、どのようにロードマップを引くかが話題に挙がった</li><li>● 敷居を下げるために研修の名称を工夫する、まずは使ってもらい、要望が出たクラスから導入してもらい、などの各校の実施状況の共有があった</li></ul>

# グループ協議② 発表内容

協議テーマ	参加校数 (グループ数)	グループ協議の発表内容	
情報Ⅱ等の授業での取組	19校 (3グループ)	情報Ⅱ等の授業での取組 グループD2	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内でも、情報Ⅱをこれから開設する学校、現在学校設定科目で実施されている学校、現在既に実施されている学校があった</li> <li>情報Ⅱをこれから行う学校が多かったため、どのような内容を行うべきか、という話が出ていた</li> </ul>
情報Ⅱ等の開設・カリキュラム編成	7校 (1グループ)		
デジタルスペースの環境整備	16校 (2グループ)		
文理横断的・探究的な学びにおけるデジタル活用	53校 (8グループ)	デジタルの活用等に関連した校内研修の実施 グループE	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生向けの研修自体が行えないという学校もあった</li> <li>ハイスペックPCの組み立てを企業に協力して頂きながら実施した事例や、大学の先生に講義頂き校内の先生の意識向上を図った事例の紹介があった</li> </ul>
デジタルの活用等に関連した校内研修の実施	13校 (2グループ)		
生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進	23校 (3グループ)		
外部専門人材の活用・関連機関等との連携	31校 (5グループ)		